

どのようなことにお金を使うの？



1年間の市民サービスにかかる費用を市民1人当たりに換算すると、右のようになるんだ。

福祉の充実にはいっぱいお金を使っているのよね。

そうなんだ。少子高齢化の影響で年々社会保障費が増えているんだ。特に市では、子育て支援策に力を入れているよ。

子育てしやすい環境を整えることで、市の人口は6年前と比べると3,000人以上増えているのよね。

今年も、民間保育所1園の施設整備補助や3つの放課後児童クラブの施設整備に3億5千万円の予算を計上しているんだ。

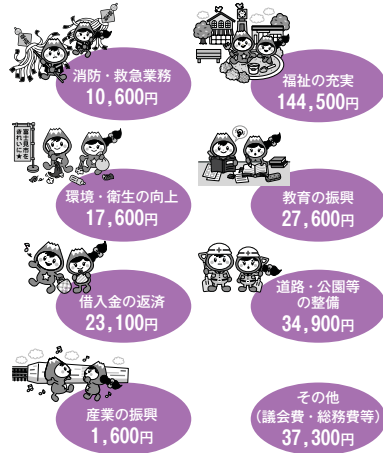
新たに、ふじみ野児童館も、ピザ☆ふじみ内にオープンするのよね。市の未来を担う子どもたちがますます増えて欲しいわね。ほかにも、色々な事業があるのよね。

道路や公園の整備、公共施設の改修など建設事業のほか、高齢者や障がい者福祉の充実、産業の振興、文化芸術の創造など紹介しきれないほどたくさんあるんだ。

そこで、平成27年度予算の詳しい内容は、「ことしのお金の使いみち」という冊子にまとめたのよね。

「ことしのお金の使いみち」は市のホームページのほか、各図書館・公民館・交流センター・出張所で見ることができるので、ぜひ見てね。

【市民1人当たりのサービスにかかる費用（一般会計）】
297,200円／年（前年度比△1,700円）



4月に開所した民間保育所「ナーサリースクール☆ SUKUSUKU」

中期財政計画（普通会計ベース）（単位：億円）

区分	28年度	29年度	30年度	31年度	
歳入歳出合計	320	313	315	318	
主な歳入	市税	144	144	141	142
	地方交付税	31	31	31	31
	国県支出金	75	75	75	75
	繰入金	7	3	8	11
	人件費	49	47	46	45
主な歳出	扶助費	90	92	94	97
	公債費	27	29	29	29
	投資的経費	39	32	32	32

今後の財政見通しは怎なの？

歳入の骨格をなす市税は、新たなまちづくりの進展による効果などにより堅調に推移しますが、歳出は、少子高齢化の影響による扶助費の伸びなどにより、今後も厳しい財政状況が続く見込みです。市では引き続き、魅力的なまちづくりの推進や企業誘致による雇用の創出などにより、財政健全化を進めながら、市民サービスの維持向上を図っていきます。

平成27年度当初予算概要

ことしのお金の



市の「平成27年度当初予算」が決まったよ。どんなことにお金を使うのか、予算の内容を僕たちが紹介するね！

使いみち

問合せ／財政課 ☎231

平成27年度の予算はどれくらい？

皆さんは、市の予算は1つのお財布ではないことを知っているかな？ 市の予算には目的ごとに大きく分けて3つのお財布（会計）があるんだよ。

市の基本的な費用を計上している一般会計と、国民健康保険など特定の事業を行うための特別会計、それから、料金収入で運営する水道事業会計と下水道事業会計の企業会計ね。

そのすべての会計の平成27年度の予算総額は、606億円なんだ。これは、前年度より、25億円増えて、過去最高の予算規模になったんだよ。

社会保障費である国民健康保険特別会計や新たなまちづくりの推進による下水道事業会計の増額の影響が大きいのよね。

そうなんだ。これも、皆さんの暮らしやすさの向上のためなんだよ。

区分	平成27年度予算額	前年度との増減額
一般会計	325億円	—
特別会計	219億円	21億円増
企業会計	62億円	4億円増
合計	606億円	25億円増

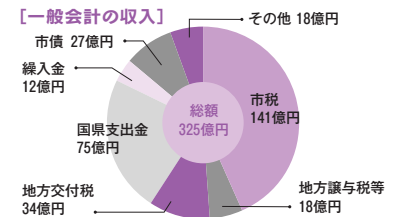
※金額は、1億円未満四捨五入 ※会計は、各会計の単純合計

市税の負担はどれくらい？

一般会計予算の収入のうち、43%の141億円が、皆さんに負担してもらう市税なんだ。鶴瀬駅東西口地区や水子地区などの新たなまちづくりの取組みの成果が現れ、過去最大の税収規模になったんだよ。

ほかには、消費税率上げによる収入が5億円ほど増えているのよ。この引上げ分は、すべて、社会保障施策経費に使うのよね。

市税の収入が141億円って、とても大きな金額だから、なかなかイメージがでないかもしれないけど、市民1人当たりの市税の負担に換算してみると、129,100円なんだ。



【市民1人当たりの市税の負担】

129,100円／年（前年度比△700円）

・個人市民税	59,400円
・固定資産税	48,200円
・都市計画税	9,200円
・その他の税	12,300円

※平成27年2月末日現在の人口（109,236人）で計算